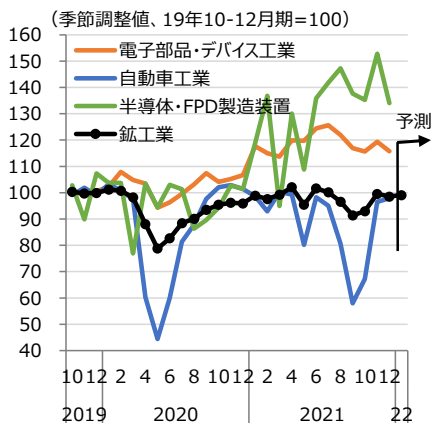


日本

鉱工業生産指数（2021年12月） 生産は自動車を中心に持ち直し

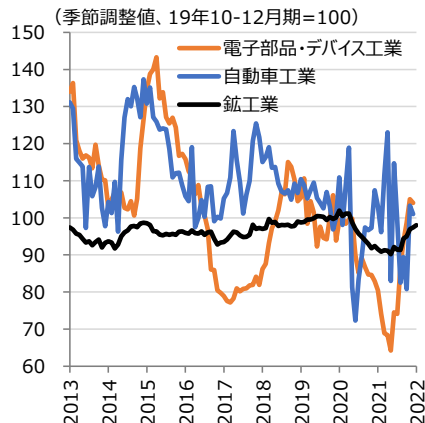
政策・経済センター
田中康就
03-6858-2717

1 鉱工業生産指数



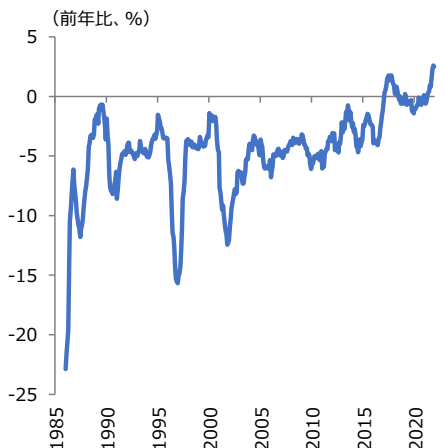
注：FPDはフラットパネルディスプレイ。予測は製造工業生産予測指数を経済産業省が補正した予測値で延長。
出所：経済産業省「鉱工業指数」「製造工業生産予測指数」

2 鉱工業在庫指数



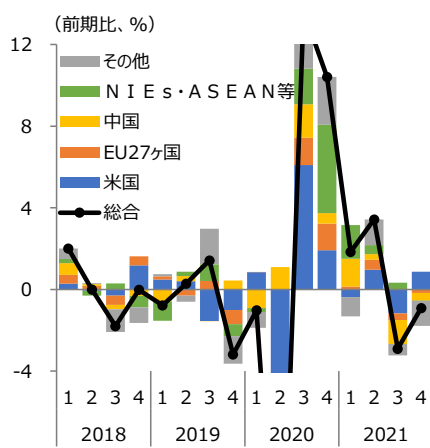
出所：経済産業省「鉱工業指数」

3 半導体・デバイス価格



出所：日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

4 実質輸出入



出所：日本銀行「実質輸出入の動向」

評価ポイント

今回の結果

- 21年12月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比▲1.0%と、前月が同+7%の大幅増だったこともあり、3ヶ月ぶりに低下（図表1）。21年10-12月期の生産は、季調済前期比+1.0%と、2四半期ぶりの増加となった。
- 業種別では、自動車工業（季調済前月比+1.5%）が小幅ながらも3カ月連続で増加した。半導体や部品の不足感を背景に、21年半ば以降は大きく落ち込んでいたが、21年末にかけて持ち直しの動きが続いた。在庫も持ち直しており（図表2）、部品・半導体の不足感は一頃に比べると和らいでいる模様だ。
- 電子部品・デバイス工業（同▲3.0%）および半導体・FPD（フラットパネルディスプレイ）製造装置（同▲12.3%）は2ヶ月ぶりに減少した。もっとも、5G、自動車の電動化に関する投資需要など半導体関連への需要は強い。特に半導体・FPD製造装置は、11月に過去最高水準を更新し、高水準にある。
- 製造工業生産予測調査によると、22年1月の生産は前月比+0.6%程度（企業の予測値と実績値の平均的ズレを経済産業省が補正した値）となっている。

基調判断と今後の流れ

- 生産指数は、自動車を中心に持ち直し傾向にある。
- 先行きの生産は、回復傾向の継続を予想する。東南アジアの部品工場は再開が進みつつあり、部品不足による減産は解消に向かっているとみられる。もっとも、生産の増加ペースは緩やかにとどまろう。まず、半導体の不足感は続く可能性が高い。半導体価格の伸びは過去に遡れる86年以降で最も高く、需要拡大ペースは供給拡大ペースを上回っている模様だ（図表3）。また、輸出も中国向けを中心に力強さを欠いており（図表4）、輸出増による増産は小さいとみる。
- 先行きのリスクは、①感染急拡大による経済活動抑制の再強化、②半導体・部品不足の長期化、③債務問題を抱える中国経済の行方などが挙げられる。